

教職大学院 NEWS

三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第2号 H29.5月発行



院生のみなさんの目の輝きが違います！

教職大学院の授業が始まり、約3週間が経過しました。実際に授業が始まるまでは、院生のみなさんからは「教職大学院の授業がどのようなものかわからないから、わくわくします。」「大学院の授業だから難しそうです。」「たくさんの方と学び合えるのが楽しみです。」「みなさんについていけるか少し心配です。」「というような声が聞かれました。そして、いざ授業が始まると、院生のみなさんは、どの授業においても、積極的に討論に参加したり、一字一句も聞き逃さないよう集中したりと、それこそ全力で授業に取り組まれています。教員スタッフの間では、「本当に熱心だ。」「授業に取り組む姿勢が素晴らしい。」「目の輝きが違う！」「さすが、一期生だ。」といった感想が聞かれます。様々な地域、校種、年齢の、ある意味異質な集団が協働して学び合うところにこそ、教職大学院の学びの価値があると言えます。授業の中で行うグループ協議の中で、学部新卒生の素朴な疑問や学校外の視点からの意見に、現職教員がはっと気づかされたり、これまでの自分の実践を振り返るきっかけとなったりする場面が見られます。また一方では、学部新卒生は、実際に学校現場に入らないとわからないような学校現場の現状や課題等を知ることができたり、経験豊富な現職教員から教職に関する様々なことを学んだりする場面が見られます。まだ、始まったばかりですが、これからも院生、教員スタッフが協働して豊かな学びを展開していきたいと考えています。

～教職大学院授業紹介～ ICTを用いた授業改善とアクティブラーニング 担当：須曽野

初回の授業で、授業参加者による自己紹介プレゼンテーションをOHP(Overhead Projector)または書画カメラ+ビデオプロジェクタを使って始めた。約束として提示したことは次のとおりである。

- ・ OHPシートまたはA4紙1枚に視覚情報を書き、それを投影して使う
- ・ 1分になったら(タイマーで「ピピピ」)、強制終了する
- ・ 自分の得意なこと、または、好きなこと、を入れる

本プレゼンテーションのとり組みを終えてから、本授業で学んで欲しいこと(教師が意図していたこと)をすぐに説明せず、3～4人のグループになり、院生同士で話し合う時間を取った。話したことを3つにまとめて「3s(スリーエス)カード」に書かせ、全体で発表させた(右下写真)。この自己紹介プレゼンが、アクティブラーニング、情報機器の使い方、授業改善とどう変わるか、現職教員や教員を目指す院生であればある程度分かるはず、と考えたからである。

担当者(須曽野)が意図していたことは、

- ・ 手書き、手描きの良さ、見直そう
- ・ 古いものでも使い次第
- ・ 絵や図(視覚情報)を使う
- ・ 魅力的な、心に残るプレゼンとは
- ・ 限られた時間の中でプレゼンすること

ということであったが、後でPPTのスライドで説明した。アクティブラーニングを取り入れたり、授業改善を進めるには、ICTを取り入れれば上手くいく、というわけではない。このような基本を体得することが重要で、授業実践デザインや実践が進めやすくなる。

「絵や図(視覚情報)を使う」ということは、授業で取り上げる「Multimedia Learning」とつながっていく。「Multimedia Learning」とは、マルチメディアの学習ではなく、マルチなメディアを使って学ぶ学習であり、「言葉のみからよりも画像と言葉から学んだ方が理解しやすい(People learn better from words and pictures than from words alone.)」という米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校のメイヤー教授の考え方である。

「Multimedia Learning」の文献は英語の原著でしかなく、5月からの授業では、英語教員を目指す教員実践力開発コース(学部新卒者)の院生がメイヤー教授の本を章ごとの要約を発表することになっている。学校経営力開発コースの中には、英語教員免許を持つ現職教員はいないが、「この機会に英語も勉強してもみよう」と英文購読に挑戦する現職院生が数名いる。(素晴らしいことですね、頑張ってください)



三重県の学校や地域の教育に貢献する教職大学院をめざします!

三重大学教職大学院は、リーダー育成と教育力向上で学校や地域に貢献することをめざしています。リーダー育成とは、本大学院生を、「マネジメント能力」「課題解決能力」「未来を拓く力」の3つの力を有する、学校や地域で指導的役割を果たし得るリーダーまたは未来のリーダーとして育成することです。院生は、複数の大学教員や同期入学生たちとの協働的な探究に取り組みながら、自身の教職経験や学校・地域の教育実践を意味づけ、質を高めていきます。また、教育力向上とは、教職大学院において、学習会や研修会の講師を担う未来のリーダーを育成することで、教職大学院における学びの成果が広く地域に還元されることや、院生が学修テーマとして持ち込んだ学校や地域の本質的な問題が多角的に幅広い視野から検討され、解決の道が探究されること、教職大学院の専任教員が、その専門性を生かし、学校や地域からの要請に応じて様々な支援を行うことで、学校や地域の教育力の向上に資することです。

【専任教員への講師依頼等について】

三重大学教職大学院の専任教員の専門分野等の一覧表をお示しします。ご相談等は、一覧表の各専任教員までメールでお願いします。

専任教員名	主な専門分野	支援内容
天野 智裕 (准教授) amanot01@edu-u.ac.jp	学校経営 授業UD 若手教員育成支援	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり・学級づくり(授業のユニバーサルデザイン入門講座等) ・学級経営に困難を抱える教員の支援、若手教員育成支援
市川 則文 (特任教授) nichire@edu.mie-u.ac.jp	教育方法、指導 学校経営、授業づくり等	小中学校の授業づくり、学級づくり等へのアドバイス (特に、社会科、生活科、総合的な学習、道徳など)
織田 泰幸 (准教授) oday@edu.mie-u.ac.jp	教育経営学 学校組織論	・学校の組織力を高めるための基本的な考え方の講座 ・学校管理職や教師のリーダーシップについての講座 ・チームとしての学校についての講座
笹屋 孝允 (特任講師) tsasaya@edu.mie-u.ac.jp	教師教育 授業研究 学級経営	・校内研修、研究授業の支援 ・対話的、協働的な学習を中心とした授業づくりの提案
須曾野 仁志 (教授) susono@edu.mie-u.ac.jp	教育工(夫)学 インストラクショナル デザイン 国際理解交流教育	・アクティブラーニングや通常授業でのICT学習利用 ・学習者によるプレゼン・デジタルストーリーテリング ・反転学習や遠隔学習の支援・英語や様々な言語での国際交流支援
瀬戸 健一 (教授) setoken@edu.mie-u.ac.jp	生徒指導	教師研修:例「生徒指導の実践モデル作成」から学ぶ教師の省察力(教師の指導実践やあり方の振り返り)、教師同士の協働性発揮プロセスなど。
園部 友里恵 (特任講師) sonobe@edu.mie-u.ac.jp	教育方法学 表現教育 演劇/ドラマ教育	・協働性、身体性を重視した授業づくりの検討 ・コミュニケーション、チームワーク、創造性などをテーマとしたワークショップの実施
田邊 正明 (特任教授) tanabe@edu.mie-u.ac.jp	不登校児童生徒支援 生徒指導、特別支援 教育、子育て支援	・カウンセリング技法等を利用した子育てや不登校児童生徒の支援 ・LDやADHD等の発達障害児の理解啓発及び支援 ・生徒指導や特別支援教育を大切にされた学校経営の在り方
飛岡 美穂 (准教授) tobioka@edu.mie-u.ac.jp	授業づくり 校内研修支援	・主体的・対話的で深い学びの視点をふまえた授業づくり・授業改善へのアドバイス ・授業改善に向けた校内研修の活性化支援
森脇 健夫 (教授) moriwaki@edu.mie-u.ac.jp	授業研究、教師の資 質・力量研究 教師のライフヒストリ ー研究	学力を育てる授業研究 授業づくりの7つのポイント(活用型授業とユニバーサルデザイン) 全国学力学習状況調査の分析

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

☎ 059-231-9319 (学務担当)

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp> (教職大学院専用 HP)

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp